

報告 第20回「泉区 福祉のつどい」記念セミナー を開催しました

日時：平成25年5月25日(土) 午後5時30分から午後8時30分

場所：仙台市泉社会福祉センター 大会議室 1・2

内容：施設・事業所における防災対策セミナー

講師：(株)BCPJAPAN 代表取締役 山口泰信氏

今までに経験をしたことのない大規模災害 東日本大震災。あの日のあの時をどれほど覚えていますか。仕事場ではどう対応し、いつもと同じ仕事に戻れるまでに何日かかりましたか。そして今、また災害に襲われたらどのように対応されるか決まっていますか？

震災後あれほど強烈に感じたはずの危機管理の重要性を忘れかけている自分に驚くことがあります。暮らしの基本である仕事をどんな時でも行えるように備えるためには…。20回目を迎えた福祉のつどいにふさわしい企画としてこのテーマを選びました。講師は「東日本大震災の記録・宮城」の中の対談編に出て頂いた(株)BCPJAPAN代表取締役の山口泰信氏。氏は阪神淡路大震災の時にリーダーとして避難所運営を行いその後、地震津波被害の奥尻島や中越地震などで災害支援活動にあたり、現在は企業防災、地域防災、事業継続計画BCP策定に関わる事業を展開しています。



今回のセミナーでは、災害はいつどこで遭遇するかわからないので、いつでも対応できるように準備しておく必要性を改めて感じました。

防災対策は就業中と就業以外に分ける。就業以外なら ①施設内 ②自宅 ③外出中なのか。災害発生時どこにいてもまずは生きることが大事。そして、そこで自分は何ができるか。家族で決めておくこと。仕事場で決めておくこと。

高齢者に対するの苦言もありました。よく自分もういいんだ、避難なんかしないと強情を張る人がいるが、そんな方の所に助けに走る若者が現れる。そして命を落としてしまう。若者を無駄死にさせないためにも早いうちに避難する必要があるんだと。

施設では夜間などの少人数で対応しなくてはならない時には、やらなくてもいいことを決めておくことも大事になる。

気仙沼の施設からご参加頂いた方からは、災害当時の職員に対するの残業代をどう計算したらいいものかなど経営者ならではの相談などもあり、2時間程度のセミナーでは時間が足りなすぎ、次回の講演を期待するとの声が多くありました。防災対策への意識は日々薄れていってしまう事を肝に命じて取り組んでいきたいと思えます。

大災害から生き残る7つの法則

- 法則① まず、自分が生きる
- 法則② 20分以内に助け出す
- 法則③ 即行動の心構え(無我夢中で動くことで心を鎮める)
- 法則④ 耐震補強(寝室だけでも守れ)
- 法則⑤ 準備と備蓄(ローリングストック)
- 法則⑥ 情報収集(事前情報・事後情報)
- 法則⑦ 訓練(実践的な訓練)